

映像分野において培ってきた技術を医療現場へ

株式会社朋栄は、確かな技術とお客様からの要望への対応力の世界の放送市場から評価を頂いている映像機器メーカーです。

術野カメラ映像信号表示装置

マルチビューワー MV-1200A **4K^{ULTRA}HD**



画面レイアウトイメージ

ディスプレイにカメラ映像をはじめ
必要な情報を統合表示



■ デジタルとアナログが混在した映像信号に対応

ビデオ信号 (HD/SD/アナログ/HDMI 対応) に対応しています。例えば術場映像 (手術室の監視カメラ映像/アナログコンポジット)、術野映像 (電子顕微鏡/HD-SDI)、PC 入力 (電子カルテ/HDMI 入力) などを混在表示可能です。

■ 4種類のレイアウトを最大6画面に表示可能

最大4種類の異なるレイアウトを最大6つの画面に出力可能です。例えば手術室内で医師が見る映像と学生・研修医やコメディカルが見る映像を異なるレイアウトで別々のモニターに表示することもできます。

■ 時計を画面内に表示可能

デジタル/アナログの時計を表示可能です。時計表示として使用しない場合は、カウントアップ/カウントダウンタイマーや残時間タイマーとして使用することが可能なため、手術経過時間や麻酔時間の表示等に活用できます。

■ ストリーム出力、4K入出力に対応

出力映像をLAN経路でネットワーク上に転送でき、院内の別の場所でもリアルタイムで映像の確認が可能です。また4K入力にも対応しており、4Kカメラ映像のモニタリングも可能。さらにはHD映像を4Kにアップコンバートすることも可能です。

導入事例のご紹介 ～東邦大学医療センター大森病院様～

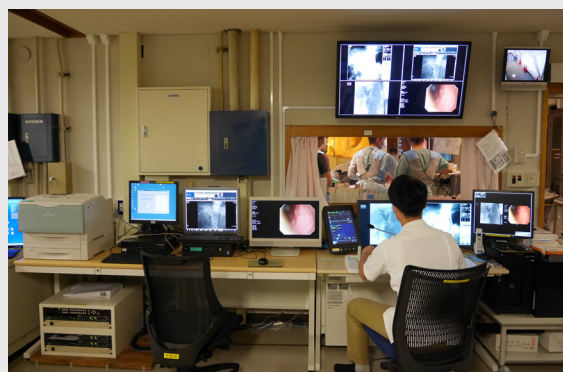
東邦大学医療センター大森病院 中央放射線部様では2015年10月、X線透視室に映像モニタリングシステムとしてマルチビューワー MV-1620HSA と強化ガラス仕様ディスプレイ AG Neovo HX シリーズ 42 インチモデルを導入いただきました。導入のきっかけや使用状況など、消化器内科教授の五十嵐良典先生にお話を伺いました。

マルチビューワー導入のきっかけを教えてください。

当院は大学病院という性質上、研修医や医学生に学習目的で検査を見せる機会が多いです。今までは、X線透視室で使用している機器の映像は、それぞれの機器に接続された卓上モニターに映し出されており、大勢で一度に見るには不便な環境でもありました。そこでX線装置の更新に合わせて、大型モニターに複数の映像を一度に表示できるマルチビューワーを導入しました。

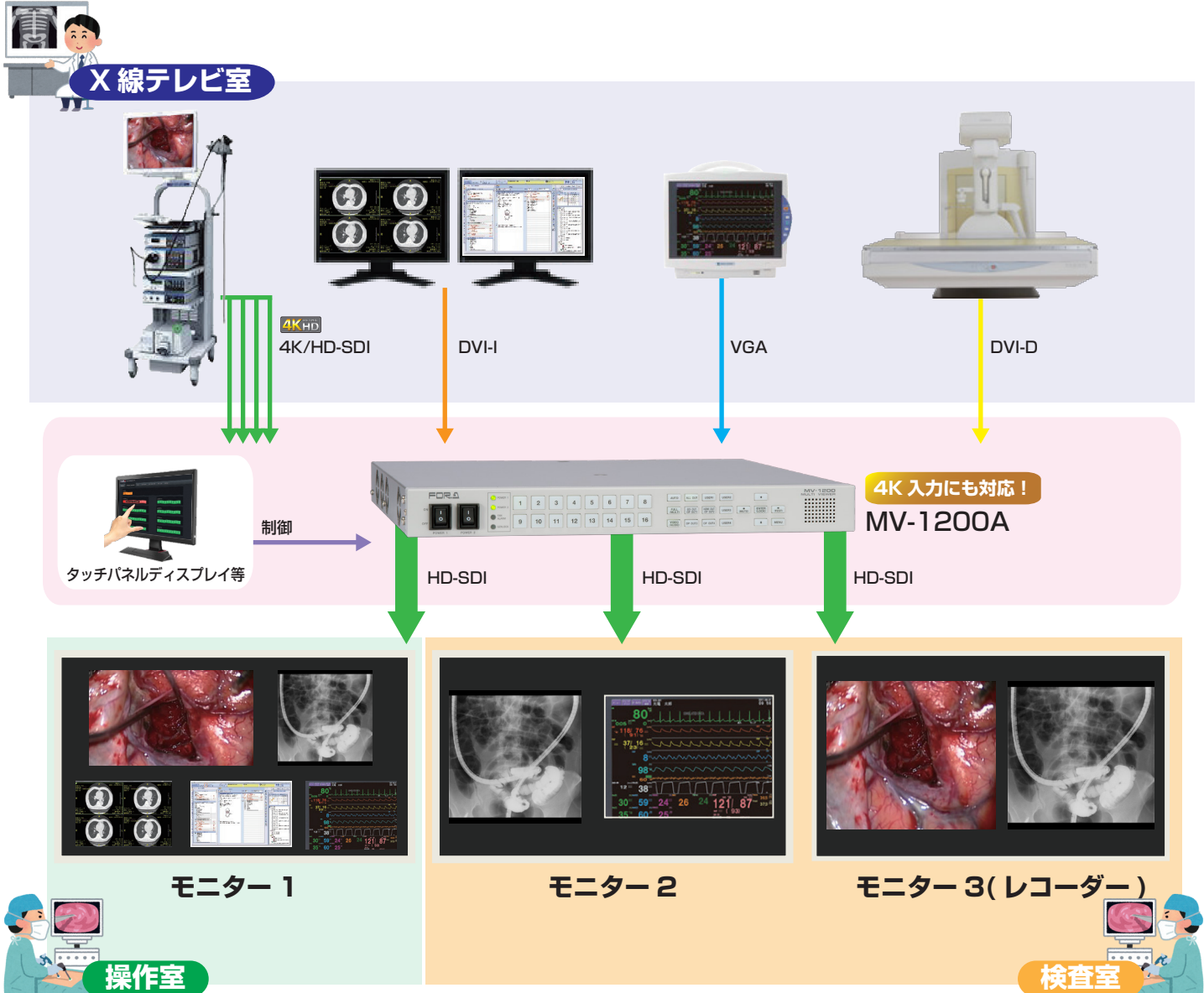
どのように使用されていますか？

主に4分割表示で、内視鏡、X線透視画像、CT等の関連画像を並べて表示しています。研修医や医学生にとっては、内視鏡映像やX線透視映像を並べて表示することで、1対1で理解してもらうことが重要です。壁面上部の大画面に複数映像を1つのモニターで確認できるようになったので、よく見えますし理解を深めやすくなったと思います。



(インタビュー：2015年11月)

朋栄のマルチビューワで見たい映像や
情報端末の画像を X 線の画像と一緒に一括表示できます。
操作室でのカンファレンス等の指導に最適です。



マルチビューワへの入力は、信号の種類によりコンバーターまたは変換コネクタが必要です。

SDI 入力対応強化ガラス仕様フルハイビジョンディスプレイ AG Neovo シリーズ

- 各種器具やアーム等がぶつかっても破損の心配がいらぬ
硬質ガラスを採用
- 防塵防滴機能、焼き付き防止機能も搭載
- 様々な入力端子を搭載:
Sビデオ、コンポジット、RGB (VGA)、
SDI、DVI、HDMI、Display Port

